

# おお大勝利

平成 22 年度山東サッカー部報第 12 号 (7 月 12 日)

サッカー部保護者の皆様、OBの皆様、日頃より本校サッカー部の活動にご理解とご協力を賜りまして、感謝申し上げます。

## Yリーグ前半戦 五分の星で終了

7月10日(土) 山形市陸上競技場にてYリーグ第7節新庄東戦がございました。山東は前節の坊平ラウンドにて羽黒に大敗を喫しており、そこで得られた守備における課題を今節どれだけクリアできるか、が問われる戦いとなりました。その主な課題とは、アウトサイドで数的不利にならないためのサイドハーフとサイドバックの連携(敵サイドバックが駆け上がったときのマークの受け渡し)、逆サイドバックと逆サイドハーフが「つるべの位置」<sup>1</sup>を守ること、の2点です。新庄東は現在のキャプテンにして1年時にU16の山形県選抜に選ばれた選手がキープレーヤーなのですが、彼が今節イエローカードの累積で出場できない。「ありがたい好機」と敵失を喜ぶのは育成年代の戦いとしていかがなものとは思いますが、彼はそう思わせるくらいの良い選手だけに、山東としては今節の戦いを大事にしたいところ。新庄東は今年、サッカー部の後援会を発足させピッチ外の支援体制を整えただけに、その好影響がピッチ内の選手に及ばないはずがありません<sup>2</sup>。期待と不安の中、キックオフを見守りました。

山東のCDFは2年大築と1年凌のコンビ。前節までCDFで先発していた博愛(ヒロアキ)は体調不良のため欠場。コンディションを試合に向けて整えることができるかどうか、実力の一つです！試合が開始されると、確実なボールポゼッションから新庄東が押し気味に試合を進める。新東の選手はトラップで敵の裏をかこうとする選手が多く(まさにトラップ=罠を仕掛ける選手が多く)、技術の高さを感じさせる。ただ新東MFとFWに高い位置でボール回しをされているわけではないので、やや安心して試合を眺めているのですが、最後のところで競り負けてフィニッシュにまで持っていかれるシーンが序盤に2、3度出現。逆サイドに振られたときに敵に先に行かれてしまうシーンが目立ち、上記課題の がまだまだY1のレベルでできていないことを痛感させられる。序盤の劣勢をしのぐと、徐々にケンこと乾(そのまんまです)とメッシこと祐介のボランチコンビのボール回しが試合を落ち着かせ始め、山東の時間を作り始める。特に多田が右サイドを抜け出し、ゴール前ファーサイドにフリーで流れたマツこと松永にセンターリングがドンピシャ合ったときは、「ゴール

<sup>1</sup> つるべの位置とは、井戸水を汲み上げる際に二つの桶が滑車を起点に互い違いに上下動する様を表しています。それが転じて、守備においてボールサイドのハーフやバックがプレッシャーに行くために高い位置を取る一方、逆サイドのハーフやバックが(ボールサイドの)プレッシャーをかわされて味方ゴールに迫られそうになったときのために位置的に低いカバーリングのポジションを取ることを意味しています。そのポジション取りを連続的に行うことが、とりあえずの守備の基本と言えます。その際、逆サイドの選手は、マンマークではなくスペースマーク(人に付くのではなくゴール前近くのスペースを埋めること)をする必要があります。人によっては、シーソーなどと言ったりもします。

<sup>2</sup> 熱い応援ブログもございますので、一度「新東サッカー部後援会」で検索してみてください。

だ！」と飛びあがってしまいました（実際はヘディングがファーに流れ得点ならず）。五分五分の試合の中、0 - 0でのハーフタイム入りを予感し始めた山東の最後の攻撃において、右サイドハーフ嶋貫を追い越しパスを受けた右サイドバックのヤマトこと和（これまたそのまんまです）がグラウンダーの優しいセンターリング。それをニアサイドに走りこんだ多田がきれいに流し込み、前半45分に先制。再開のキックオフとともに前半終了という絶好の得点となる。

後半も一進一退。新庄東は、春先にはまだまだユース年代にフィットしていなかった1年生に落ち着きが見られ（特にボランチ！）、チーム力が上がっている。これにキャプテンが加わればさらに脅威だな、と感じさせられる。山東は、というと、1年生でユース世代の戦いにフィットしていると呼べる選手は・・・さびしい限り。多くはまだ中学生だな、というイメージ。良く言えばこれからの伸び代が大きいということですが。そんな中、後半27分、最終ラインでの敵FWとのポジション争いが高じて小競り合いを演じてしまった和が、肩で敵を押しただで一発退場。肩でのプッシュは、ボールとは無関係なところで、進行を阻んだ和を敵FWが押したことへの報復でしたので、和だけが一発退場は厳しい判定でしたが<sup>3</sup>、不必要な小競り合いであることには変わりはありません。10人になり、選手は自主的な判断でFW多田を「本職」のCDFに戻し、4バックにし対応。10人で攻める姿勢を見せるも、10人の勝っているチームが2点目を狙うのは無謀だったか、逆に新庄東に逆サイドへの長いロビングボールを再三狙われ、対応に追われる。最終ラインが敵選手のキックに合わせバックステップをあらかじめ踏むという基本が定着していないという課題と合わせ、新東は の課題がクリアされていない問題点を的確に突いてくる。結局、長いクロスボールがGKの判断ミスを誘い、後半35分に失点し同点とされる。その後、新東は押せ押せになりもう一度山東ネットを揺らすも、オフサイドに阻まれる。山東は勝ち点1を拾うので精一杯といったところで、タイムアップの笛を聞く。10人になった時点でディフェンシブな戦いを徹底させられなかった采配ミスは否めませんでした。

試合後の正直な感想としては、山東の精神的・技術的・戦術的未熟さもさることながら、エースを欠いても新東は巧いし力強かったということ。「勝ち点を上げるのは（エースのいない）今のうちだ」などと不遜にも試合前に考えたことを反省させられました。前回書いたスローガンを再掲。山東の力から考えて1部の試合に楽な試合はありません。これで7節終了し、3勝3敗2引き分け（10節の羽黒戦を前倒しているので8試合消化）。8チーム2回総当たりを折り返した時点で五分の星となります。厳しい戦いが続きますが、次週もまた、応援よろしく願いいたします。

7月19日（月） Yリーグ第8節 VS 鶴岡東 14:00～ @天童第2

## がんばれ 山形一中！！

7月9日（金）山形市陸上競技場にて18:00から山形一中と練習試合を行いました。山形一中は昨年度新人戦で優勝し、今年は地区中体連では敗れてしまったものの、県では優勝を狙っているチーム。顧問今野は山形一中サッカー部OBということもあり、特別応援しております！！守備意識が高く、体を張る勇気を持ち合わせている選手が多いと感じました。技術的に上のチームに対しても果敢に挑み、目標を達成してほしいと思いました。

<sup>3</sup> とはいえ二人とも一発退場という処分だったとしたら、それはそれで厳しすぎるでしょう。